

2015年5月15日  
東京海上日動あんしん生命保険株式会社

## 「がんに関するアンケート調査結果」

東京海上日動あんしん生命保険株式会社(社長 ひろせ しんいち 広瀬 伸一)は、この度、20歳～50歳のがん罹患経験者の男女1,030名とがん罹患未経験者の男女1,034名を対象に「がんに関するアンケート調査」を実施しました。

調査結果をまとめましたので、以下のとおりご報告いたします。

### 1. がんに関するアンケート調査

(1) 以下のアンケート調査を実施し、調査結果を、弊社HP上の「あんしんセエメエの健康・長生き学園」(<http://www.anshin-gakuen.jp>)(下記2. ご参照)に掲載しました。

#### 【アンケート調査の概要】

実施日 : 2015年1月16日～1月17日

対象者 : がん罹患経験者男女(1,030名)・がん罹患未経験者男女(1,034名)

方法 : WEBアンケート調査(株式会社マクロミルの「マクロミルモニター」を利用)

目的 : がん経験者／未経験者に対して、がん治療やがん検診に対する意識などを調査することで、当社の「お客様をがんからお守りする運動」に活かし、より多くのお客様をお守りしていく。

(2) アンケート調査の一例として、がん罹患未経験者に「がんの治療」や「がん検診」について聞きした調査結果を別紙に掲載しております。

#### 【ポイント】

##### 1. ご自身の治療に関して、34%の方が一番いい治療法を希望

がんの治療において、34%の方が「治療費が高くても一番いい治療法を選びたい」と回答され、2012年実施の当社アンケート結果(約9%)と比較すると、より多くの方が金額によらず良い治療法を選びたいと回答されています。

より「がん治療の重要性」への理解が高まっていることがうかがえます。

##### 2. 配偶者に対しては、50%の方が一番いい治療法を希望

ご自身の治療に対しては、「治療費が高くても一番いい治療法を選びたい」と考える方が34%なのに対し、配偶者に対しては、50%の方が「治療費が高くても一番いい治療法を選びたい」と回答されており、自分自身より家族に対して、積極的な治療の意識が高いことがうかがえます。

##### 3. がん保険加入者の方が、がん検診の受診率が高い

がん検診受診率を「がん保険加入」の有無別に比較したところ、「がん保険加入者(受診率:37%)の方が、「がん保険未加入者(受診率:31%)」より、がん検診受診率が高いことがわかりました。

## 2. 「あんしんセエメエの健康・長生き学園」のコンテンツ追加

上記1. のアンケート結果の詳細を、「あんしんセエメエの健康・長生き学園」(<http://www.anshin-gakuen.jp>)内の「図書館」の「調査結果について調べる」に掲載しました。

「あんしんセエメエの健康・長生き学園」には、アンケート結果の他にも、「健康診断結果の見方」や「医療機関のかかり方」などの、皆様の健康に役立つコラムをご用意しておりますので、ぜひご覧ください。

### 【コンテンツイメージ】



「情報提供サイト「あんしんセエメエの健康・長生き学園」」より多くの皆様に疾病の予防や健康管理の大切さをお伝えし、健康で長生きしていただくために2012年2月に当社公式ホームページ上に開設した情報サイトです。これまで、「健康診断結果の見方」や「医療機関のかかり方」等のコンテンツをご用意し、多くの方に閲覧いただいています。

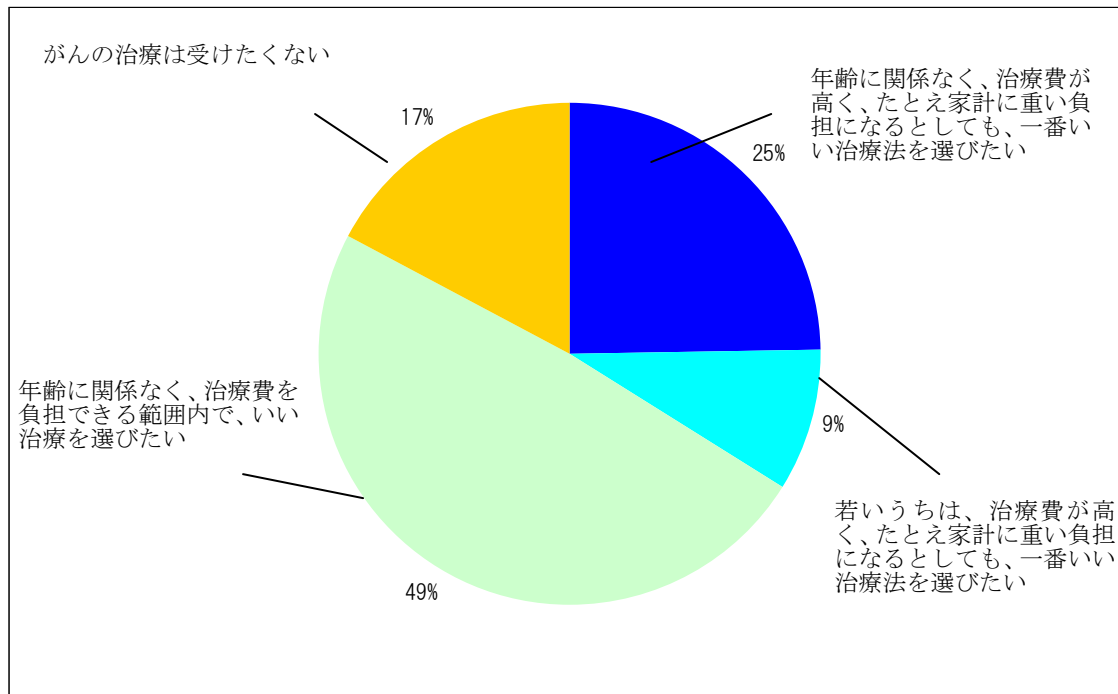
( <http://www.anshin-gakuen.jp> )



以上

**Q1. ご自身や、ご家族ががんになった場合、治療法はどのように選ばれますか？**

(1)ご自身に対して



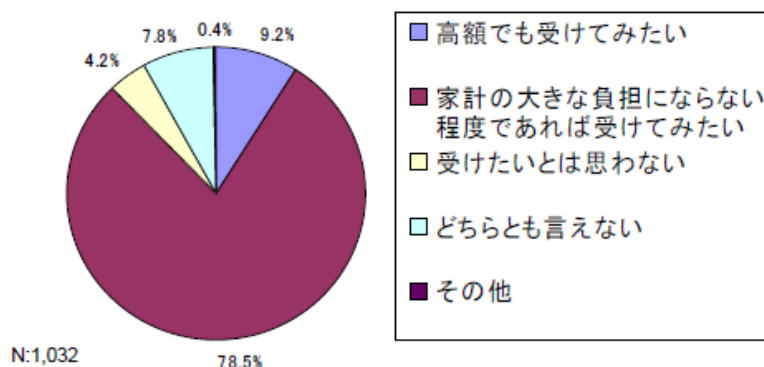
約半数の方が「治療費を負担できる範囲内でいい治療を選びたい」と回答されていますが、25%の方が「年齢に関係なく、治療費が高くても(家計に重い負担になっても)一番いい治療法を選びたい」と回答され、「若いうちは、治療費が高くても一番いい治療法を選びたい」を加えると、34%の方が、「治療費が高くても一番いい治療法を選びたい」と回答されました。

2012年の当社アンケート実施時より「がん治療の重要性」への理解が高まっていることがうかがえます。

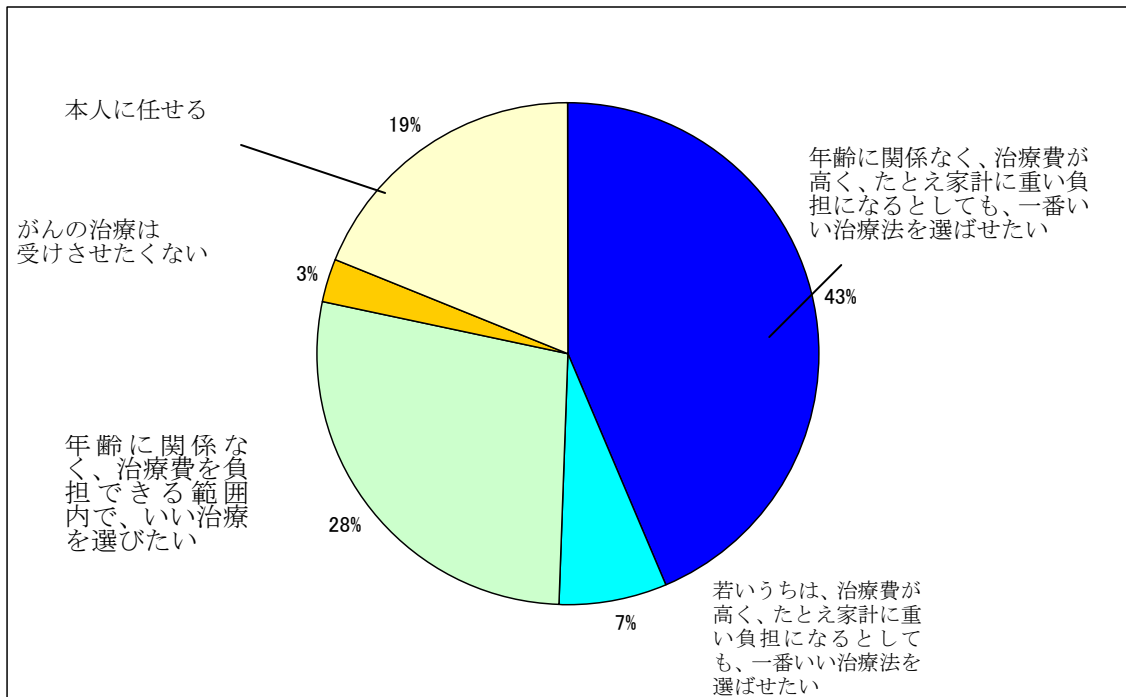
【参考】2012年5月実施アンケート

Q 自分が「がん」になったら、有効な治療であれば、高額でもうけてみたいと思いますか。

【自分自身に対して】



(2) 配偶者に対して



「本人に任せる」と19%の方が回答される一方、43%の方が「年齢に関係なく、治療費が高くても(家計に重い負担になっても)一番いい治療法を選びたい」と回答され、「若いうちは、治療費が高くても一番いい治療法を選びたい」を加えると、50%の方が、「治療費が高くても一番いい治療法を選びたい」と回答されました。

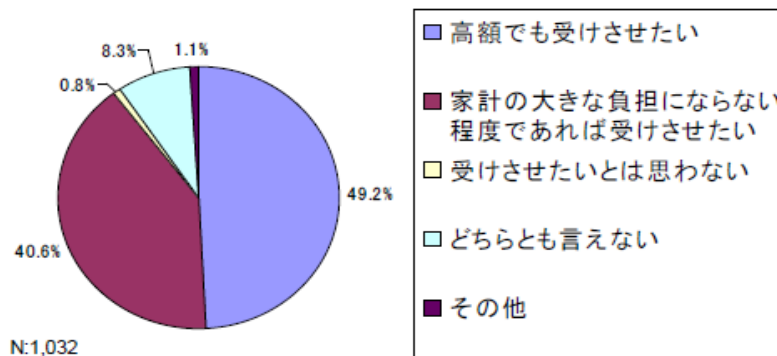
自分自身に対しては、「治療費が高くても一番いい治療法を選びたい」と考える方が34%なのに対し、配偶者に対しては、50%の方が「治療費が高くても一番いい治療法を選びたい」と回答されており、自分自身より家族に対して、積極的な治療の意識が高いことがうかがえます。

当社は、2012年にも同様の調査を行いました。前回に引き続き、今回も、自分自身より家族に対して、治療費を惜しまないと回答された方が多いとの結果となりました。

【参考】2012年5月実施アンケート

Q 自分の家族が「がん」になったら、有効な治療であれば、高額でもうけさせたいと思いますか。

【自分の家族に対して】

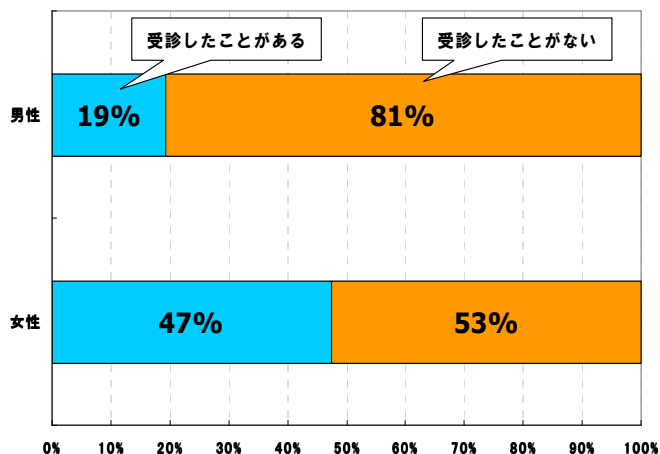


## Q2. 国や市区町村が実施する「がん検診」を受けたことがありますか？

「男性・女性40歳(※)～50歳」の方にかがいました。

(※)「市区町村が実施するがん検診」の受診対象年齢(女性の「子宮頸がん検診(20歳～)」を除く)

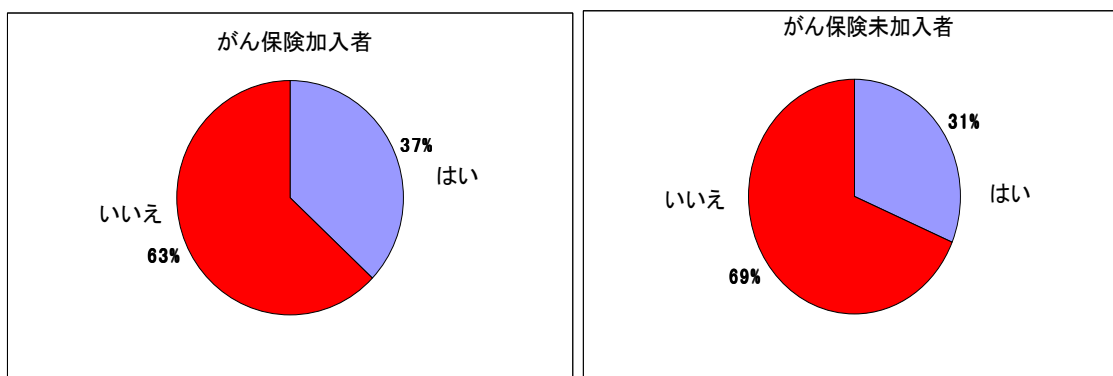
### (1) 国や市区町村が実施する「がん検診」の受診率



「国や市区町村が実施するがん検診の受診率」は男性19%、女性47%、男女あわせて33%との結果でした。

(2)「がん保険加入者」と「がん保険未加入者」の方に「国や市区町村が実施するがん検診」の受診についてうかがいました。

### 【がん検診受診率】



がん検診受診率を「がん保険加入」の有無別に比較したところ、「がん保険加入者」(37%)の方が、「がん保険未加入者」(31%)より、がん検診受診率が高いことがわかりました。